

一期生・二期生の先輩方の合格・内定体験記

◇ 一般社団法人藤元メディカルシステム

一期生:商業科(志布志中出身)

私は、就職活動を通し、たくさんのことを学び感じた。なかでも、最も意外に感じたのは、就職試験本番の一日よりも、それまでの準備期間のほうがとても大変だったことだ。夏休みはほとんど登校し、面接対策を中心に、履歴書の作成や筆記対策などに取り組んだ。また、自分が受験する企業が決まると実際に職場見学にも行くなど、とにかく忙しい夏休みだった。

面接対策では、なかなか思うように答えられず何度も壁にぶつかった。その壁を乗り越えるためにとっても重要だと感じたものがある。それは自己アピール力だ。自分の長所、成長したと思うところを自分で見つけて人に言うのは、最初はとても恥ずかしく少し抵抗があった。しかし、面接ではとにかく積極的に自分をアピールしなければ、初対面の相手に自分を分かってもらえない。また、普段は自分についてそこまで深く考えることはなかったが、就職活動があったことで、自分を改めて見つめ直し、これまでの人生を振り返りながら自分の良いところや課題に気づくことができた。そして自分の長所や学業に対して努力した結果である資格取得を武器にして、面接で勝負した。さらに私の場合には、学校生活とアルバイトとの両立にも力を注いできたため、そのことも自己アピールとして活かすことができた。

指導していただいた先生からは、自己PRと志望動機は、自分の幹となるため、とにかく時間をかけて作成するよう教えてもらった。また、自分が苦勞したことや失敗したこと、そして苦手なことなどを具体的なエピソードとともに織り交ぜ、それを克服するために取り組んだことをアピールすると、気持ちが入りやすく、より説得力が増すといったアドバイスも頂いた。私は、アルバイトを通して「働く」ということに触れることができたため、そこから学んだことを実際の仕事にも活かしたいといった内容も加えた。自分で文章を校正していくと言葉遣いの違和感や、自分でも気づかない間違いが多くあり、先生や友人に何度も見せて指摘してもらった。話し言葉と書き言葉の違いや企業の敬称でも複数の使い方を知り、失礼のないように何度も書き直すことで最終的には、自分でも満足の良い文章を作ることができた。



そして、自分の気持ちをまとめた文章を繰り返し読んだり、友人たちと読み合わせたりして覚えていくことで自分の感情と合わせて話すことができるようになり、自然と話すことができるようになった。そのため、本番の面接でも戸惑うことなく面接官に自分の気持ちを伝えることができた。

このように、就職試験では準備期間が最も大切だと感じた。そのなかでたくさん壁にぶつかると思うが、逃げずに立ち向かい乗り越えること、そのためにはしっかりと自分と向き合うことが必要だと思う。苦しかったが、私は無事に希望した就職先から内定通知を頂くことができた。内定の知らせを聞いた瞬間は、とても嬉しく、一緒に頑張ってきた多くの仲間とも喜びを分かち合うことができた。

4月から、希望した就職先で働けることになったが、新しい場所でも今回の活動を通して学んだことや自分と向き合った経験を活かして、多くのことを吸収し精一杯頑張っていきたい。

◇ そお鹿児島農業協同組合

二期生:畜産食農科(末吉中出身)

祖父が農業を営んでいる関係で、中学生の頃から農業に興味をもつようになり、高校では、畜産コース肉用牛班を専攻し、日々の実習に取り組んできました。

いよいよ進路先を決める時期になり、私は迷わず就職を選び、求人票を見ながらどの企業が牛に関わることができるかじっくり探しました。そこで私はJAの畜産指導員という仕事を知り、この仕事なら多くの畜産農家の方々と関わり、高校で学んだことが活かされると思い、志望しました。

試験勉強は主にSPIをしました。面接練習は自分の意見をしっかりと言えるようになったので、自信をもって試験に臨むことができました。試験が終わり、内定の通知を心待ちにしていました。内定することしか考えていませんでした。無事に内定を頂くことができ、とても嬉しく安心しました。

後輩の皆さん、あと1・2年後には自分の進路を決める時期になります。先生方にも気になったことは必ず聞きましょう。最終的に自分のしたいことにつながる進路先を選択することをお勧めします。何がしたいか分からない人は今からでも多くのことに挑戦して、何が自分に合っているか、楽しめるか探してみてください。

